

# 田富小だより

学校評価アンケートへの御協力ありがとうございました。学校運営協議会において学校評価の結果についての御意見も伺い、以下のようにまとめました。具体的な目標を設定する関係で数値による基準を設定していますが、それだけにとらわれることなく子どもの日常の姿を大切にしていきたいと考えています。来年度も保護者・地域の皆様の御協力よろしくお祈りします。

総合評価	<p>今年度は、11の重点項目と16の具体目標を設定し、学校教育目標の実現に向け、全教職員が参画意識を持って組織的な取組を行った。今年度は、中間評価を早い時期に実施し、取組の改善を図ることができた。その結果、14の具体目標について、ほぼ目標を達成することができた。</p> <p>学校教育目標は教員だけのものではなく、児童にとっても達成すべき目標となるものであると考え、児童版の学校教育目標として「児童の育ちのめあて」を設けている。また、基本的な授業の流れ、掃除や給食の手順をスタンダード化し、担任が代わっても児童が主体的に取り組めるようにした。その結果、授業のはじめにその時間に達成すべきゴールを設定する姿が見られるようになった。また、詩や物語の暗唱に意欲的に取り組んだり自分たちで話し合ったことをホワイトボードにまとめて発表したりするなど、主体的・対話的に学ぶ姿も見られた。さらに、全校集会で自分たちだけで並んだり避難訓練で高学年の児童が低学年の児童を並べたりするなど、学校生活において自立した姿が見られるようになった。これらは、「児童の育ちのめあて」が具現化したものであると考える。このような素敵な児童の姿がたくさん見られるようさらに取り組んでいきたい。</p>	
	重点項目と指標(具体目標No.)	結果及び所見
1	<p><b>自立への基礎(①②③④)</b></p> <p>①目標をもって学校生活を送っていると回答する児童を60%以上にする。</p> <p>②休日に2時間以上インターネットやゲームをする子を15%以下に、平日に1時間以上する子を20%以下にする。</p> <p>③自転車乗車時のヘルメットの所有率を60%以上、着用率を50%以上にする。</p> <p>④校内をきれいにしよう取り組んでいると回答する児童を98%以上にする。</p> <p>④学級の当番活動や係活動に一生懸命取り組んでいると回答する児童を95%以上にする。</p> <p>④委員会活動は充実した活動になっていると回答する児童を95%以上にする。</p>	<p>①「目標をもって学校生活を送っているか」という問い、『そう思う』と回答した児童は58.8%であった。『ややそう思う』の33.0%を含めると91.8%に達している。本校の児童は目標をもって学校生活を送っていると言える。</p> <p>②時間調査では、休日に2時間以上している児童は25%、平日に1時間以上している児童は30%であり、いずれも目標を達成することはできなかった。一方で、まったくしない児童が平日で30%、休日で22%いる。二極化が進んでいることが分かる。</p> <p>③ヘルメットの所有率は53%から70%に、着用率は35%から56%に改善し、目標を達成することができた。また、保険の加入率も66%を達成している。学校HPやお便りで呼び掛けた成果だと思う。</p> <p>④「校内をきれいにしよう取り組んでいるか」の問いに対し、肯定的な回答は97.3%となった。「そう思わない」と回答した児童は1.1%から0.3%に減った。目標の98%には届かなかったが、日常の指導や児童会の取組が浸透していたことが分かる。</p> <p>④「クラスのために当番活動や係活動に取り組むことができたか」の問いに対し、肯定的な回答は96.5%となった。目標の95%を超えることができた。学級指導の結果、子供たちに自分たちの活動として意識され、目標設定ができていたようだ。</p> <p>④「委員会活動は、充実した活動になっていると思うか。」という問いに対し、肯定的な回答は98.9%となった。目標の95%を超えることができた。</p>
2	<p><b>聞いて考え、語り合う子(⑤⑥)</b></p> <p>⑤2学期終了時まで、すべての児童のあゆみの評価が◎になるようにする。</p> <p>⑥授業中、友達の話聞いて自分の考えをよりよくすることができていると回答する児童を90%以上にする。</p>	<p>⑤2学期終了時点で「あゆみ」の評価が「◎」の児童は、89.2%であった。目標の100%には及ばないが、昨年度より1.5%ほど改善した。授業において聞き方についてのめあての確認や振り返りを1年間継続して行ってきた結果だと思う。</p> <p>⑥「授業中、友達の話聞いて自分の考えをよりよくすることができているか」の問いに対し、肯定的な回答は92.7%であった。目標の90%は達成された。子供にとって必要感のある話し合いが行われたことが考えられる。</p>
3	<p><b>読む子(⑦⑧)</b></p> <p>⑦うちどくカレンダーに半分以上○がつく児童を、各学級60%以上にする。</p> <p>⑧好きな詩や物語の一節を暗唱できる児童を、各学級85%以上にする。</p>	<p>⑦読書週間前後の月の達成率は全校平均が50%を超え、昨年より10%以上も上回る月が多くあった。全体の3割のクラスが毎月ほぼ60%に近い達成率で、読書が習慣化してきている。高達成率だったクラスでは、身近な大人が関わりもっていることが分かった。家庭の読書への関心向上の取組を継続し、全校の達成率60%を目指したい。</p> <p>⑧音読カードや暗唱カードを活用し、名詩名文や物語などの暗唱に積極的に取り組ん</p>

		だ。好きな詩や物語の一節を暗唱できる児童を各学級 85%以上にするという目標は、すべての学級で達成することができた。昨年度作成した暗唱カードを全校で共有し、すべての学年で暗唱カードをもとにした取組が、成果につながったと考えられる。
4	<b>確かな学力を支える授業(⑨)</b> ⑨勉強する力が伸びたと回答する児童を 90%以上にする。	⑨田富小の授業の進め方が教員だけでなく児童にも定着し、授業の目標や学習課題、まとめを児童が作る姿が見られるようになってきた。「勉強する力が伸びたなあ」という問いに対し、肯定的な回答は低学年 90%、高学年 85%、全校では 88.2%であった。低学年は目標の 90%を達成することができたが、目標にはわずかに及ばなかった。
5	<b>自ら学ぶ子(⑩)</b> ⑩「毎日学習している」「ほぼ毎日学習している」と回答する児童を 84%以上にする。 ⑩自学の目標が達成できたと回答する児童を 65%以上にする。	⑩「毎日学習している」「ほぼ毎日学習している」と回答した児童は、低学年 82.3%、高学年 78.4%、全校 80.3%であった。目標の 84%には及ばなかったが、高学年は 1 学期の 69.4%から 78.4%に伸びたこと、「家庭で毎日に勉強しているか」の問いに肯定的な回答をした児童が 96.2%いた。全体的に家庭学習の習慣がついてきている。 ⑩「やってみるじゃんノート」への取組については、目標の全校平均 65%以上にするに対して、74.3%であった。昨年度の 58.7%に対して飛躍的に伸びた。各学級での担任の呼びかけや優れた「やってみるじゃんノート」を紹介した成果であると考えられる。
6	<b>心の居場所と支え合う学校生活(⑪)</b> ⑪「学校が楽しいか」において、否定的な回答をする子の割合を 5%未満にする。 ⑪何かあったとき、先生方に話していると回答する児童を 90%以上にする。	⑪「学校が楽しいか」の問いに対し、否定的な回答は 4%だった。5%未満にするという目標は達成された。生徒指導において、児童の気持ちに寄り添った指導や保護者へのきめ細やかな連絡の成果だと考える。 ⑪「何かあったとき、先生方に話しているか」の問いに対し、肯定的な回答は 83.5%だった。目標の 90%には届かなかった。しかし、QI テストでは、学級満足群の属する児童の割合昨年度の 56%から 75%に大幅に上昇しており、子供たちにとって学校が安心して楽しく生活できる場となっていると思われる。
7	<b>地域とつながるあいさつの活動(⑫)</b> ⑫「我が子はあいさつがよくできているか」という問いに、否定的な回答を 14%以下にする。	⑫「お父さんは、あいさつがよくできていると思うか。」という問いに対し、否定的な回答は全体の 12.7%だった。昨年度の 16.2%に比べ改善が見られ、目標の 14%以下を達成することができた。月別生活目標であいさつに重点を置いたり、「あいさつビンゴ」を行ったりするなど、児童会を中心に学校生活の様々な場面で継続して指導してきたことの成果だと考えられる。
8	<b>共生の教育(⑬)</b> ⑬誰とでも仲良く協力して活動していると回答する児童の割合を 90%以上にする。	⑬「誰とでも仲良く協力して活動しているか」の問いに対し、肯定的な回答をした児童は、低学年 94.2%、高学年 94.0%だった。目標の 90%を達成した。フレンドシップ委員会が外国のあいさつカードを配付した。下校時に「さようなら」の代わりに「チャオ」「ラーコン」などと声をかける児童の姿が見られた。
9	<b>体力向上(⑭)</b> ⑭50m走で目標タイム(全国平均 10 月)以上となる児童を 65%以上にする。	⑭5月の 50m走では、全国平均を上回っていた児童は全体の 35%であった。1月の 50m走では、全国平均を上回った児童の割合は、1年生(84%)、2年生(79%)、3年生(60%)、4年生(61%)、5年生(76%)、6年生(75%)となった。全校平均 72.5%となり、当初の目標であった 65%以上をクリアすることができた。
10	<b>食育の推進(⑮)</b> ⑮嫌いなものでも食べるように努力していると回答する児童の割合を 90%以上にする。	⑮「嫌いなものでも食べるように努力している」と回答した児童は、88%であった。6月の 86%からは改善したが、目標の 90%には及ばなかった。残菜調べにおいては、一人当たりの残菜が 8月の 45.1g から 10月には 33g と大幅に改善した。教育活動全体を通して食育を実践し、年間を通して指導した成果であると思う。
11	<b>積極的な情報発信と連携(⑯)</b> ⑯学校からの情報発信や連携が図られていると回答する保護者が 95%以上にする。 ⑯学校の情報を得るためにホームページやブログを閲覧した保護者を 80%以上にする。	⑯「学校は適切な連絡や情報提供を行っているか」の問いに対し、肯定的な回答は 96.4%だった。養護教諭を始め、各教員が児童の体調の確認や連絡を綿密にこつたことや、日ごろから些細な事であっても児童が帰宅する前に保護者に連絡するということを、心がけて行ってきた成果であると思う。 ⑯「学校の情報を得るために HP を閲覧したか」の問いに、肯定的な回答は 68.2%だった。昨年度と比較しブログの閲覧数は確実に増加しているが、評価としては否定的な回答も多くなった。年度初めから次第にブログの更新率が下がっていく傾向が見られた。年度を通じて定期的に更新することが課題である。

